

## 2020 年度実施概要

学校名

富山県立氷見高等学校

採択活動名

魚類の混食ゴミの調査

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科(科目)
1. 沿岸部に生息する魚類の混食ゴミの調査	3年	水産(課題研究)
2. 部活動(海洋研究部)	1～3年	
3.		

取り組みの概要

**(実施した活動全体の概要を記載してください)**

今回は混食ゴミの調査を3年の教科：水産の科目「課題研究」及び部活動「海洋研究部」で沿岸部に生息する魚食性の高い魚の胃内容物を調査して行った。授業内で、海洋汚染の一角であるマイクロプラスチック問題に興味を持った生徒から端を発し、ビニール片などを混食している魚類がいるのではないかとこの調査に乗り出した。

今回は家庭ゴミなどが海洋へ投棄、或いは河川から流れてきたものを間違えて捕食する魚類がいるかどうか、いたらどの程度の割合なのかを調査するため、魚食性の高い魚類で、尚且つ沿岸性の高い魚類を釣りによる捕獲で調査した(船を出して魚類の捕獲を行わなかったのは、沿岸にあるゴミを実際に見ながら捕獲することで、生徒への海洋汚染の興味関心をより高めさせることと、研究発表の際に大型定置網漁業などが漁業の中心となっている氷見の漁業従事者への風評被害を避けるため)。

また、捕食性の高い魚類は日出・日没などの時間帯に多く釣れることから、貸し出し用の釣り具用品等を多数揃え貸し出した。また、小さい魚、ストマックポンプで胃内容物の検査が出来たものはリリースした。そして、釣る時に鰓の傷ついたものや、弱っているものは捕獲・解剖した。

基本的に、沿岸部で魚食性の高い魚類を中心に捕獲を行った。捕獲した魚種はスズキ、クロダイ、マゴチ、ヒラメ、コイ、マルタ、ウグイ、クロソイ、キジハタ、マハゼ、マアジ、アカカマス、ダツ、アカヤガラ、ボラ、カサゴ、メバルである。

活動中の写真

デジタルデータにて2～3枚の添付をお願いします。

(本ファイルへの貼り付け、別ファイルでの添付、どちらでも構いません)

## 活動写真

活動範囲が年間に及ぶため、複数の写真を添付します。

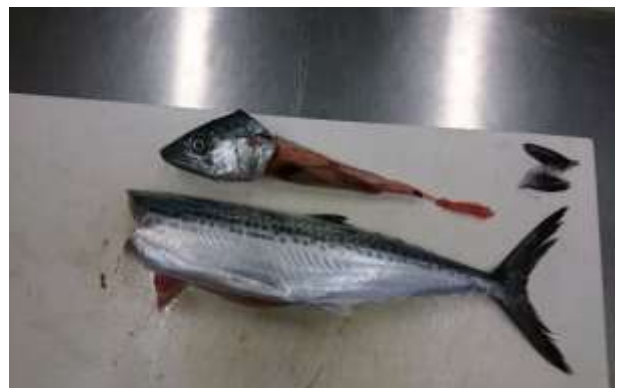
### ①魚食性魚類捕獲の準備(3年 課題研究)



### ②漁獲された魚(左：サワラ 右：スズキ)



### ③内臓の腐食が早い魚は瞬間冷凍で冷凍してからの解剖を行う(写真はサワラ)



④凍結魚体は頭部・内臓と可食部を切り分けてから内臓は混食ゴミの解剖、可食部は新製品開発(鱈の醤油漬  
缶詰・オリーブオイル漬・バジルオイル漬・水煮)になった。



⑤魚食性魚類の解剖(写真はマルタウグイ) [海洋研究部(部活動)]



⑥混食ゴミからプラスチック片のみを取り出す実験(写真はサワラ、ウグイ) [海洋研究部(部活動)]

